

1.9 眼科後期臨床研修カリキュラム、専門医養成コース

1. 眼科の概要

1. スタッフ

部長 1名 杵野 久美子
医長 1名
医員 1名

日本眼科学会専門医 2名

2. 設備・検査・手術などの実績

<診療実績（H25年度実績）>

外来患者数は1日平均57人、入院患者数は1日平均5人、年間手術件数は約550件。そのうち白内障の手術件数は年間469件、硝子体手術27件である。斜視弱視視能訓練年間約520件、レーザー光凝固術年間約132件である。また、学会、研究会等に積極的に参加し発表を行い、最新の知見を得、見聞を広めること努力するとともに、その知識を日々の診療に還元できるよう努めている。

<医療機器>

眼底カメラ、マルチカラーレーザー光凝固、YAG、SLTレーザー装置、光干渉断層計、超音波診断装置、動的静的視野検査、網膜電図、小児用視力検査機器、白内障手術装置、硝子体手術装置、色覚検査機器

2. 診療科の特徴

<診療内容>

眼瞼、結膜、涙器、角膜などの外眼部疾患、水晶体、ぶどう膜、網膜、硝子体などの内眼部疾患、眼窩疾患、視神経、屈折異常、斜視、弱視、眼外傷、全身疾患の眼合併症等について当科で診療している。主な疾患として、白内障、緑内障、糖尿病網膜症などがあげられる。

検査は、視力、眼圧検査をはじめ、診察時に細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などを行い、さらに必要に応じて、視野検査、網膜電図、蛍光眼底造影検査などを行っている。

手術は白内障を中心に、緑内障、黄斑前膜、糖尿病網膜症手術などを入院にて行っている。外眼手術は、斜視、眼瞼内反症、翼状片、麦粒腫、霰粒腫などを主として外来で行っている。小児の手術については、小児病棟に入院の上、対応することもある。

<診療方針>

患者の皆さまを第一に考え治療方針の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを重視し、十分に説明を行い、理解いただいたうえで、方針を決定している。眼疾患は、眼特有の疾患だけでなく全身疾患の合併症である場合や、他科との関連の深い場合が多く見られる。他科との連携を密にし、効率的な診療を心掛けている。

3. 一般目標

3年目

- 1) 眼科医として必要な臨床能力を身につける。
- 2) 救急医療に参加し今後の医師として最低限必要な知識、技術の習得, 確立をめざす。

4年目

- 1) 眼科専門医取得に必要な臨床経験と知識の習得をめざす。
- 2) 眼科医に望まれる臨床能力を幅広く身につける。

4. 行動目標

3年目

- 1) 外来検査の全てを理解し行うことができる。
- 2) 外来小手術、外来処置のトレーニングを受ける。
- 3) 眼科診察器機を使用して眼科診察ができる。
- 4) 眼底レーザー光凝固、虹彩レーザー光凝固、レーザー後発白内障切開術の指導を受ける。
- 5) 眼科夜間救急患者の診察、処置、治療対応ができる。
- 6) 全科当直に必要な知識を救急ローテーションにて学ぶ。

4年目

- 1) 入院患者の治療計画を立て主治医として治療を行う。
- 2) 外来小手術を上級医と伴に担当医として行う。
- 3) 手術患者の手術前マネジメントを行い、手術室では内眼手術のトレーニングを受ける。
- 4) 外来診察を毎日行い外来診療の流れを理解し円滑に行えるようにする。
- 5) 学会発表、論文作成を積極的に行う。

5. 経験目標

- a. 一般的診療技術および知識

- 1) 視器（眼球、視路、視中枢、眼球付属器）の解剖を理解する。
- 2) 視器の生理を理解する。
- 3) 視機能の種類およびその意義を理解する。
（視力、光覚、色覚、視野、眼位、眼球運動、両眼視、屈折、調節、輻湊、開散）

4) 細隙灯顕微鏡検査を習得する。

- ※ ① 前眼部（隅角鏡検査を含む）
- ② 後眼部（ゴールドマン三面鏡）

5) 眼底検査を習得する。

- ※ ① 直像眼底検査
- ② 倒像眼底検査

b. 各種検査法

※ 1) 視力検査法を習得する。

2) 屈折検査を習得する。

① 他覚的検査法

i) 検影法

※ ii) レフラクトメーター

② 自覚的検査法

※ i) レンズ交換法

※ ii) クロスシリンダー法

※ iii) 二色テスト

※ 3) 調節検査を習得する。

4) 視野検査を習得する。

※ ① 対面検査

※ ② 動的量的視野測定

③ 静的量的視野測定

④ フリッカー視野測定

※ 5) 色覚検査を習得する。

6) 電気生理学的検査（ERG）を習得する。

7) 画像診断検査の意義を理解し、その結果の正確な解析を習得する。

① エコー

② その他（CT、MRI、X線撮影）

8) 眼位、眼球運動、両眼視機能検査を習得する。

9) 緑内障検査を習得する。

- ※ ① 眼圧測定
- ② 隅角鏡検査
- 1 0) 眼底撮影、蛍光眼底撮影検査を習得し、その結果の正確な解析を研修する。
- ※ 1 1) 涙液分泌検査を習得する。

c. 各種治療法

- 1) 薬物療法を習得する。
- ※ ① 点眼
- ※ ② 内服
- 2) 涙のう洗浄およびブジーを習得する。
- 3) 眼鏡処方を習得する。
- 4) 外来小手術を習得する。
- ※ ① 麦粒腫
- ※ ② 霰粒腫
- ※ ③ 睫毛乱生
- ※ ④ 角膜異物除去
- ⑤ 翼状片
- 5) 白内障の手術方法・術前術後管理の理解、および助手としての参加。
- 6) 緑内障の手術方法・術前術後管理の理解、および助手としての参加。
- 7) 斜視の手術方法の理解、および助手としての参加。
- 8) 網膜剥離の手術方法の理解、および助手としての参加。
- 9) 光凝固の手術方法および適応の理解。
- 1 0) 冷凍凝固の手術方法および適応の理解。

d. 対象疾患

- 1) 眼瞼
 - ① 眼瞼内反
 - ② 眼瞼外反
 - ③ 睫毛乱生
 - ④ 麦粒腫
 - ⑤ 霰粒腫
- 2) 結膜
 - ① 細菌性結膜炎
 - ② ウィルス性結膜炎

- ③ アレルギー性結膜炎
- ④ 翼状片
- 3) 涙器
 - ① 乾性角結膜炎
 - ② 涙のう炎
 - ③ 涙道狭窄又は閉鎖
- 4) 強膜
 - ① 上強膜炎
 - ② 強膜炎
- 5) 角膜
 - ① 角膜潰瘍
 - ② 角膜炎
 - ③ 円錐角膜
- 6) 水晶体
 - ① 白内障
 - ② 脱臼
- 7) ぶどう膜
 - ① ぶどう膜炎
 - ② 脈絡膜剥離
- 8) 網膜
 - ① 網膜中心動脈閉塞症
 - ② 網膜中心静脈閉塞症
 - ③ 網膜剥離
 - ④ 中心性漿液性脈絡網膜症
 - ⑤ 黄斑変性症
- 9) 腫瘍
- 10) 視神経炎（球後視神経炎）

e. 救急医療（下記のことを習得する）

- ※ 1) 角膜上皮びらん、紫外線眼炎を診断し、適切な処置を行う。
- 2) 角膜異物の摘出を安全に行う。
- ※ 3) 眼内異物の有無の確認を行う。
- ※ 4) 急性緑内障発作を正確に診断し、適切な初期処置を行う。
- 5) 網膜中心動脈閉塞症の診断を行う。

眼科週間スケジュール

	A M	P M
月	外来診察・手術	手術
火	外来診察	手術・レーザー・斜視検査
水	外来診察・手術	手術
木	外来診察	手術・レーザー・術前検査
金	外来診察	レーザー・斜視検査